令和８年度　市民総参加子ども育成運動推進委員会全体会
意見交換：子どもへのまなざし運動「大人の行動指針」改訂に向けて　報告書

1. 概要

日　時：7 月 23 日（木）10：40～12：00
場　所：佐賀バルーンミュージアム３階　青少年センター　大会議室
出席者：31 名（家庭分科会　5 名、地域分科会　7 名、企業等分科会　4 名、学校等分科会　6 名、
　　まなざし運動兼務主査　9 名）
進　行：佐賀市教育委員会社会教育課子どもへのまなざし運動・若者支援推進室
テーマ：「子どもの主体性を育むために必要な大人のかかわり方とは何か」

2. 目的

子どもを取り巻く環境や社会の変化を踏まえ、子どもの主体性を育むために必要な大人の関わり方について意見交換を行い、その内容を子どもへのまなざし運動「大人の行動指針」の改訂の検討に生かすことを目的とする。

3. 委員から出された意見

出された意見を内容に応じて、以下の 4 つの大分類と、それに属する 14 の小分類に整理した（各意見については、趣旨を損なわないよう原則として原文のまま掲載している）。

(1)大人のあり方と子どもへの関わりを見直す

○ 子どもの権利・人格と気持ちを尊重する

子供に対して平等に接する／他者を認める声かけ、環境づくり／あなたとわたし、個人として接する／子どものキライを否定しない／子どもを自分とは別の人間として尊重する（所有物にしない）／子どもの権利条約を大人に周知！／まず、承認する！／共感する／ほめる／自己肯定感をあげて自信をつける！！／＋αの一言シャワー／他人と違うことを恐れない環境づくり

○ 大人が責任を持ち、必要な説明や声かけをする

根拠を示しながら説明する／間違っていることは正してあげる、頭ごなしに叱らない／保育士の声掛けもとても大切で、それによっては放任になってしまう／大人が責任を引き受ける／社会の仕組みなどの情報を伝える／主体性について話をしておく

○ 大人の価値観・常識・偏見を見直す

経験則を伝えつつもそれを押し付けない／高齢者の立場から過去の自分の自慢話や、若者の悪口を言わず、仲良く、楽しい人生を目指す（老いては子に従え！）／変わることは必然であるという姿勢を持つ／大人が思う「子どもはこうあるべき」を一旦「捨てる」必要がある（例）外で元気に遊ぶべき！大人のいうことを聞くべき！／無意識の偏見をなくす／大人が自分の子どもの頃の経験を正当化しない／常識、情報のアップデート

○ 大人自身が関心を持ち、主体的に関わる

大人の関心を増やす／大人の出番ですよ！何ができるのか／大人の主体性をどうするか？

（2）子どもの声・発想・選択を起点に、対話し、見守る

○ 子どもの声を聴き、思いを引き出す

子どもの考えを引き出す⇒認める／「待つ」と「聴く」／どうしたいの、なにしたいのと聞く／子どもの意見を楽しんで共有する／間違いを否定せずに何故そうしたかを問う／傾聴（目と耳と心で）／子どもが合意形成するのを手伝う／子供の意見を聞く、大人が理解を示す／イベント等を提供する際も、子どもの意見を聞いて実施。その資源は例示を複数提供する／発言する力の醸成（子ども）

○ 子どもの選択・自己決定を尊重する

子供に選択の機会を与える⇒見守る／大人の答えを示さない、子供の意見、考えを尊重／子どもの決断を尊重する／家庭内では、時間との戦いでもあると思うが、なんでもとにかく自分で考え、行動させる

○ 子どもを信じ、待ち、見守り、伴走する

伴走の距離感／手だてを示し、子どもが動くのを見守る／待つ、向き合う、信じる／必要に応じて声をかける、手を出しすぎない／自由保育に取り組むにあたり、待つこと、見守ることが大切／子どもの世界へ大人の手伝い

○ 子どもの自由な発想を生かす

子どもの発想を引き出す／多面的・多角的に考えるよう助言・支援する／子どもの自由な発想を生かす、事業を考えてもらう／自由な発想を生かす場を提供する（AI 活用など）

（3）子どもの挑戦を支え、共に取り組む

○ 失敗を学びと捉え、繰り返し挑戦できる環境をつくる

“トライ＆エラー”、“わからない”も答えの一つ、一つのプロセスで失敗ではない／失敗を経験させる、失敗を恐れず挑戦させる／失敗してもいい、恐れない声掛け「大丈夫」「そのままでいい」／大人も失敗や悩んでいる姿をどんどん見せる／何度も挑戦できる環境づくり、失敗できる社会として見守る

○ 子どもの「やってみたい」を支え、体験・挑戦・活躍の機会をつくる

スポーツ活動で育む、自立（律）、協調性／子どもの経験を増やす⇒自己決定へのヒント／子どもが「あれっ？」と思うような提案をする／わくわくするような仕掛けを用意する／「やってみたい」ことに背中を押す／子どもたちに、あきらめず好きなことをやりきることの大事さを認めてやることが大事ではないか／いろんな体験をできる場を用意する／子どもが活躍できる出番と場所づくり／場を作り地域で生かせば、達成感を持ち、今後につながる

○ 大人と子どもが共に楽しみ、遊び、活動する

指示するのではなく、大人も一緒にやってみる／考える場に子ども、大人がだれでも参加／大人も子どもも思いっきり遊ぶ！！遊びの中の学び

（4）社会全体で安心とつながりを支える

○ 子どもや保護者が安心して過ごし、必要な相談・支援に繋がれる環境をつくる

話せる相手（窓口）の提案／親が安心して子育てできる社会／不安な時はすぐ相談に乗ることを伝えておく（風通しを良くする）／「ここにいたい」「いてもいい」と思える居場所づくり／気を遣わせない／行政の情報発信をもっと

○ 日常の交流や地域活動を通じて、世代を越えたつながりをつくる

「あいさつ」でのコミュニケーション／地域での見守り、あいさつが大切／地域でのスポーツ協会と子供会との協調、今は関係が希薄／地域の人が声かけできる社会づくり／地域の行事への参加により、顔の見える関係づくりにつながるので、（子どもが）主体性を持ち参加するように、大人が楽しんでいる姿を見せる／地域の人と子どもが「重なる」機会のつみかさね（通学通勤時、ゴミ出しの時、回覧板渡しの時）／たて、よこ、ななめの人間関係をたくさん作る／子育て世代以外とつながる

○ 家庭での対話・関係・教育を大切にする

家庭での対話／変化の時代にたえるために、家庭、親族が仲良く！／親の意識、家庭教育

4. 意見交換のまとめ

今回の意見交換では、子どもの主体性を育むために必要な大人の関わり方について、多様な意見が出された。これらの意見を整理した結果、「大人のあり方と子どもへの関わりを見直す」、「子どもの声・発想・選択を起点に、対話し、見守る」、「子どもの挑戦を支え、共に取り組む」、「社会全体で安心とつながりを支える」の４つの観点に分類することができた。

意見全体を通して、子どもを一人の個人として尊重し、その声や思いに耳を傾けながら、自己決定や挑戦を支えていくことの大切さがうかがえた。またそのためには、大人自身もこれまでの価値観や関わり方を見直すとともに、社会全体で子どもが安心して過ごし、さまざまな人と関わりながら成長できる環境をつくっていくことが重要であると考えられる。

5. 今後の対応

今回の意見交換で出された意見を踏まえ、現行の子どもへのまなざし運動「大人の行動指針」の内容との整理を行い、子どもの主体性を育むために求められる大人の関わり方がより分かりやすく伝わるよう、改訂内容の検討を進める。